

生誕130年記念

空にけやきをゆする風

# 曾宮一念展

SOMIYA ICHINEN

Commemorating the 130th Anniversary  
of the Artist's Birth  
Somiya Ichinen — The Wind in the Sky  
Blowing through the Zelkovas

※本出品目録は、2023年4月18日～6月11日の会期における「生誕130年記念 曾宮一念展—空にけやきをゆする風」（展示室3～6）の全出品作品および資料を掲載しています。

※No.は曾宮一念作品の出品番号です。ほぼ制作年順であり展示順ではありません。

※会期中、予告なく展示替えを行うことがございます。ご了承ください。

※所蔵先を明記していない作品および資料はすべて当館蔵。

## 第一章 青年期 — 師としての藤島武二と中村彝

No.	作品名	制作年	技法・素材	サイズ	所蔵先
1	赤坂離宮	1911年(明治44)	油彩・カンヴァス	45.5×60.6cm	
2	芝浦埋立地	1916-17年(大正5-6)頃	油彩・カンヴァス	50.0×65.2cm	
3	婦人像	1917年(大正6)	油彩・カンヴァス	45.5×33.3cm	
4	下落合風景	1920年(大正9)頃	油彩・カンヴァス	53.0×72.7cm	
5	落合風景	1921年(大正10)	油彩・板	24.3×33.4cm	
6	光触寺裏山下で	1922年(大正11)	油彩・カンヴァス	50.0×60.6cm	
7	落合ニテ	1922年(大正11)	水彩、鉛筆・紙	29.3×38.0cm	
8	妹の像	1923年(大正12)	油彩・カンヴァス	45.5×45.5cm	

### 藤島武二(1867-1943)

ヴェルサイユの庭	1906-07年(明治39-40)	クレヨン、鉛筆・紙	20.1×25.2cm
噴水	1906-07年(明治39-40)	パステル・紙	19.0×23.4cm
風景	1917年(大正6)頃	水彩・紙	21.5×27.5cm
婦人像	1918年(大正7)頃	水彩、鉛筆・紙	31.2×24.4cm
日の出	1930-32年(昭和5-7)頃	鉛筆・紙	14.6×23.2cm
海岸風景	1930-32年(昭和5-7)頃	鉛筆・紙	12.4×16.5cm
風景	制作年不詳	油彩・板	23.2×32.8cm

### 中村彝(1887-1924)

花	1916年(大正5)	油彩・板	22.7×15.8cm
---	------------	------	-------------

## 第二章 松本竣介との交流 — 松本竣介の『雑記帳』時代

No.	作品名	制作年	技法・素材	サイズ	所蔵先
9	アネモネ	1934年頃(大正9)	油彩・板	23.0×33.0cm	
10	向日葵	制作年不詳	油彩・カンヴァス	27.3×41.0cm	日動画廊蔵
11	玉葱	1946年(昭和21)	油彩・カンヴァス	27.3×40.9cm	
12	いちじく	1938年(昭和13)	鉛筆・紙	23.0×31.8cm	
13	花げし	制作年不詳	鉛筆・紙	27.0×35.0cm	
14	柿の花	1945年(昭和20)	鉛筆・紙	25.5×35.8cm	
15	ひなげし	1954年(昭和29)	水彩、鉛筆・紙	36.3×25.0cm	
16	とうもろこし	1955年(昭和30)頃	水彩、鉛筆・紙	25.3×16.8cm	
17	カンナ	1959年(昭和34)	水彩、鉛筆・紙	41.3×30.3cm	

松本竣介(1912-1948)

夏の花	1939年(昭和14)7月	油彩・板	23.8×33.0cm	個人蔵
花	制作年不詳	油彩・板にカンヴァス	27.4×22.5cm	個人蔵
花	1940年(昭和15)	鉛筆・紙	35.8×27.4cm	個人蔵
花	制作年不詳	鉛筆・紙	35.8×27.4cm	個人蔵

■『雑記帳』

曾宮一念エッセイ「写真づら」	『雑記帳』第2号(復刻版)	発行:総合工房、1936年11月	雑誌
曾宮一念カット「いちぢくの習作」	『雑記帳』第3号(復刻版)	発行:総合工房、1936年12月	雑誌
曾宮一念エッセイ「俚謡自慢」	『雑記帳』第8号(復刻版)	発行:総合工房、1937年6月	雑誌
曾宮一念カット「素描」	『雑記帳』第9号(復刻版)	発行:総合工房、1937年7月	雑誌
曾宮一念カット「素描」	『雑記帳』第11号(復刻版)	発行:総合工房、1937年9月	雑誌
曾宮一念カット「素描」	『雑記帳』第13号(復刻版)	発行:総合工房、1937年11月	雑誌

■松本竣介、禎子夫妻宛 曾宮一念書簡

松本禎子宛葉書	1936年8月25日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本禎子宛葉書	1936年9月17日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本禎子宛葉書	1936年10月4日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本宛書状	1936年10月7日	インク・紙	便箋	個人蔵
松本竣介宛葉書	1936年11月8日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本禎子宛葉書	1937年3月31日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本竣介宛葉書	1937年4月12日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本竣介宛葉書	1937年4月12日、夜	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本竣介宛葉書	1937年4月16日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本竣介宛葉書	1937年4月19日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本竣介宛葉書	1937年6月4日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本禎子宛葉書	1937年6月7日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本竣介宛葉書	1937年7月5日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本禎子宛葉書	1937年7月13日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵
松本禎子宛葉書	1937年8月20日	インク・紙	郵便はがき	個人蔵

第三章 円熟期—旅する画家:「自然は空想の及ばぬ驚異をもっている」

No.	作品名	制作年	技法・素材	サイズ	所蔵先
18	中禅寺湖	1938年(昭和13)	鉛筆・紙	28.2×36.1cm	
19	白濁ニテ 麦秋下絵	1941年(昭和16)	コンテ・紙	27.7×37.2cm	
20	漁家太海	制作年不詳	パステル・紙	24.0×28.7cm	
21	信濃川	1943年(昭和18)頃	油彩・カンヴァス	41.0×53.0cm	日動画廊蔵
22	山鳥	1943年(昭和18)	コンテ・紙	27.2×35.3cm	
23	富士 後雨風景	1945年(昭和20)	水彩、鉛筆・紙	25.5×35.5cm	
24	富士夕雲	1945年(昭和20)	鉛筆・紙	25.5×35.5cm	
25	賢人浜ニテ 夕日	1947-48年(昭和22-23)頃	水彩、紙	30.0×39.2cm	
26	浦上切支丹墓地	1949年(昭和24)	水彩、鉛筆・紙	24.4×35.0cm	
27	別府ニテ	1950年(昭和25)頃	水彩、鉛筆・紙	27.0×35.3cm	
28	阿蘇噴煙	1950年(昭和25)頃	パステル・紙	24.5×33.8cm	
29	初島驟雨	1952年(昭和27)	水彩、鉛筆・紙	30.5×23.0cm	
30	桜島 南岳	1955年(昭和30)頃	コンテ・紙	27.0×35.0cm	
31	太海	1957年(昭和32)頃	水彩、鉛筆・紙	16.9×24.2cm	
32	長崎野母岬	1958年(昭和33)	水彩、鉛筆・紙	24.3×33.3cm	
33	石狩砂丘 はまなす咲く	1958年(昭和33)	水彩、鉛筆・紙	24.7×34.8cm	
34	長崎 大浦天主堂	1960年(昭和35)頃	コンテ・紙	24.3×16.0cm	

35	八ヶ岳	1961年(昭和36)	水彩、鉛筆・紙	24.0×33.7cm	
36	八ヶ岳	1961年(昭和36)	鉛筆・紙	34.0×24.0cm	
37	(八ヶ岳残雪)	1961-62年(昭和36-37)頃	水彩、パステル・紙	24.5×33.5cm	
38	桜島	1962(昭和37)	油彩・カンヴァス	33.3×45.5cm	日動画廊蔵
39	洋上驟雨	1967年(昭和42)	水彩、鉛筆・紙	16.8×24.2cm	
40	洋上夕日	1967年(昭和42)	水彩、鉛筆・紙	17.0×24.3cm	
41	洋上驟雨	1967年(昭和42)	水彩、鉛筆・紙	16.8×24.3cm	
42	シャルトルの古い教会	1967年(昭和42)	水彩、鉛筆・紙	24.3×33.4cm	
43	洋上驟雨	1967年(昭和42)	鉛筆・紙	17.0×24.3cm	
44	トレド城山	1968年(昭和43)	水彩、鉛筆・紙	25.8×33.0cm	
45	スペインの野	1968年(昭和43)	パステル、コンテ・紙	24.2×33.2cm	
46	アルタミラの洞窟	1969年(昭和44)	コンテ・紙	26.7×38.5cm	
47	マダガスカル沖	1969年(昭和45)頃	木墨・紙	19.3×25.8cm	
48	裾野の月	1969年(昭和44)	墨・和紙	34.5×39.1cm	
49	波	1970-71年(昭和45-46)頃	木墨・紙	18.8×26.2cm	
50	阿蘇 米塚	1970年(昭和45)頃	木墨・紙	16.0×21.5cm	
51	焼岳	1970年(昭和45)頃	木墨・紙	16.0×23.2cm	
52	阿蘇の酒蔵	1970年(昭和46)頃	クレヨン・紙	14.8×22.5cm	

#### ■曾宮一念の著書

『裾野』 四季書房、1948年8月

『袖の中の蜘蛛』 四季社、1952年8月

『榛の畦みち』 四季社、1955年2月

『海辺の熔岩』 創文社、1958年6月

『日曜随筆家』 創文社、1962年4月

『泥繪のわた』 創文社、1964年7月

『東京回顧』 創文社、1967年2月

『紅と灰色』 木耳社、1968年7月

『白樺の杖』 木耳社、1972年7月

『みどりからかぜへ』 求龍堂、1974年10月

『砂上の画』 創文社、1967年2月

『夏山急雨』 創文社、1980年8月

『へなぶり 火の山』 文京書房、1983年4月

『武蔵野挽歌』 文京書房、1985年4月

『雁わたる』 文京書房、1987年10月

『曾宮一念 火の山巡礼』 大沢健一編、木耳社、1989年2月

『にせ家常茶飯』 木耳社、1989年10月

『曾宮一念 画家は廃業 —98翁生涯を語る—』 江崎晴城編、静岡新聞社、1992年1月

『雲をよぶ 曾宮一念詩歌集』 大岡信編、朝日新聞社、1995年4月

『へなぶり拾遺』 文京書房、1995年4月

『榛の畔のみち 海辺の熔岩 現代日本のエッセイ』 講談社、1995年4月

#### 第四章 書とことば—「空にけやきをゆする風」

No.	作品名	制作年	技法・素材	サイズ	所蔵先
53	汐烟砂山をかくす	1971年(昭和46)以降	墨・紙	27.3×24.3cm	
54	空にけやきをゆする風	1980年(昭和55)	墨・紙	45.5×30.0cm	
55	百草の丘は古の多磨のよこ山	1993年(平成5)	墨・紙	48.0×49.5cm	
56	けむりは弧を描きやがてくずれた	1971年(昭和46)以降	墨・紙	33.7×40.8cm	
57	無所得	1971年(昭和46)頃	墨・紙	35.9×15.8cm	
58	乞に生きる 多く求めて人の善心を損う勿れ	1971年(昭和46)頃	墨・紙	41.0×30.3cm	

59	画布の緑より頬の白粉より遺跡の苔と海 どりが岩にそめた白は	1971年(昭和46)頃	墨・紙	38.2×33.2cm	
60	海艸を刈る姥に近づいてみちをきく 母 に似た姥に	1971年(昭和46)頃	墨・紙	30.2×44.8cm	
61	うすべに色のみぞそばむ うなぎつかみ に良く似 まま子のしりぬぐいにも	1971年(昭和46)頃	墨・紙	33.8×44.1cm	
62	作品	制作年不詳	陶板	24.0×18.5cm	
63	開聞岳遠望	制作年不詳	陶板	19.0×17.0cm	
64	島風景	制作年不詳	陶板	14.5×14.0cm	
65	ほととぎす	制作年不詳	陶板	14.5×12.5cm	
66	夕空	制作年不詳	陶器	dia.13.0cm	

### 【特別出品】

#### 小山五郎(1909-2006)

インダスの源流	1979年(昭和54)	油彩・カンヴァス	60.6×50.0cm
---------	-------------	----------	-------------

### 「曾宮一念と小山五郎と大川美術館」

小山五郎（1909-2006）は、群馬県太田市出身の財界人。旧制太田中学校、旧制静岡高等学校を経て、東京帝国大学経済学部卒業、三井銀行に入行。同銀行の社長、会長までつとめ、1990年には、三井銀行と太陽神戸銀行が合併してさくら銀行になる折に尽力。小山は多忙のなか、絵を描くことを趣味とし、小山自身の言葉によれば、「曾宮一念は、私の画の先生である。両眼失明後は、当然画ではなく、人生の先生であった」といいます。曾宮一念は、1925年に短期間ながら静岡高等学校の講師を勤めており、その教え子のひとりが小山五郎でした。

一方、小山五郎と当美術館初代館長大川栄二（1924-2008）とは、同県人として、美術を通じて交流がありました。こうしたことから、曾宮一念没後に小山五郎の仲介で当館にご遺族から作品が寄贈され、さらに1996年に当館で「遺作展」が開催されました。小山五郎は、「遺作展」カタログにつきのように記しています。

「あの歯切れのいい、堂々たる曾宮芸術が赤城の麓、桐生の地で、上州人の心に、直接に訴えることとなる。先生の性格は、上州人とよく似た所がある。（中略）弟子として、又、大川美術館長の友人として、一人でも多くの上州人が此の曾宮芸術の愛好者あらんことを、心から念願する次第である。」（「曾宮一念遺作を上州に迎える」）